

第71回 通常総会 会長挨拶

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫



公益社団法人日本獣医師会第71回通常総会に、55地方獣医師会の会員の皆様方をはじめ、関係者の皆様方にご出席をいただき誠にありがとうございます。会長として厚くお礼を申し上げます。

本日は、日頃から私ども日本獣医師会にご理解、ご支援をいただいているご来賓の自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長の森 英介先生、事務局長の北村誠吾先生、公益社団法人日本医師会の横倉義武会長には、大変お忙しい中をご出席いただきました。特に横倉会長におかれましては、日本医師会会長として初めて日本獣医師会総会にご出席をいただきました。一昨日のBS放送のテレビ番組では、日本医師会が現在抱えている課題をお話しされていて、私ども日本獣医師会も共通の問題を持つ中で、大変勉強になりました。

また本日は、林 芳正 農林水産大臣の代理として小林裕幸 農林水産省消費・安全局長、さらに、奥主喜美 環境省大臣官房審議官、新村和哉 厚生労働省医薬食品局食品安全部長、佐野 太 文部科学省大臣官房審議官、そして公明党を代表して獣医師問題議員懇話会会長の齊藤鉄夫先生、幹事長の高木美智代先生、民主党から獣医師問題議員連盟事務局長の玉木雄一郎先生、さらに、多数のご来賓の皆様方に出席をいただきました。改めて日頃のご支援に重ねてお礼を申し上げる次第です。

さて、昨年6月に、地方獣医師会の皆様方の支援により日本獣医師会第12代会長に就任をさせていただきました。あっという間に1年が経過した感がいたします。只今「獣医師の誓い—95年宣言」の宣言文を斉唱しましたが、日本獣医師会の役割は、国家並びに国民の期待に応えることができる獣医師を育成し、また、その獣医師がそれぞれの職域で十二分に能力が発揮できる環境を整備し、さらに処遇を改善することにあります。そのためには、私ども23人の役員が日本獣医師会の将来あるべき姿を皆様方に明示しなければなりません。

我々はミッションを立てビジョンを示し、あるべき姿のグランドデザインを描かなければなりません。かつ、そのグランドデザインに到達するロードマップを示す必要があります。そこで、昨年日本獣医師会総会で、私は会長就任に当たり2つの点を皆様方に申し上げました。1つは日本獣医師会と地方獣医師会の連携の強化であり、いま1つは、諸課題にスピード感を持って対応することでありました。私はこの1年間、この2点についてしっかりと実践してまいりました。

日本獣医師会は地方獣医師会のために存在するものであり、同時に、地方獣医師会は日本獣医師会を支えていただく大きな役割と使命があります。つまり、日本獣医師会と地方獣医師会は表裏一体であり、共通の目標に向かって推進しなければなりません。そのためには常に情報と課題を共有することが肝要であります。

昨日、平成26年度の第1回全国獣医師会会長会議を開催し、大変貴重なご意見をいただくことができました。私はこの会長会議が地方の声を聞く非常に重要な場であると思っております。この会議には常設の正副議長を設置させていただき、議長に高橋三男 埼玉県獣医師会会長、副議長には三野營治郎 三重県獣医師会前会長に就任をいただいているところであります。

また、私ども日本獣医師会は、獣医学教育の整備と改善、獣医療の充実、人と動物の健康の保全、あるいは食の安全・安心の確保等、大変幅広い多岐にわたる課題を抱えておりますが、いずれも政治的に解決を図らなければならない問題ばかりです。そのような中で、公益社団法人である日本獣医師会は、日本獣医師政治連盟との分離を図り、日本獣医師政治連盟の委員長には、元農林水産副大臣で我々の同志である北村直人先生にご就任いただき、村中副委員長、篠原幹事長のご協力の下で、日本獣医師会と日本獣医師政治連盟は

車の両輪として課題解決に邁進する体制を構築したところであります。

日本獣医師会は、7つの分野別専門部会を常設し、多岐にわたる課題を解決するための論議を行っているところでありますが、スピードが肝要な課題については、3つの特別委員会を設置いたしました。女性獣医師の活用と支援、医師会との連携強化、そして感染症、特に狂犬病予防体制の再構築に関するものであります。

現在、獣医師が足りないという声が聞こえてきます。しかし我が国の獣医師の数は足りており、地域・職域の偏在がそういう声になっている訳であります。そのような中で医師会にお聞きすると、医師で医業に従事をされておられない方は0.7%だとお聞きしました。ところが我々獣医師会では12%であります。しかも約750名の女性獣医師が何らかの理由で職場を離れ、再び職場に復帰することができていません。早速、森 英介先生はじめ国会議員の先生方のお力添えで農林水産省の助成を受けて調査を実施し、問題点を抽出いたしました。今後、私どもはこの問題をどう解決すべきかを図ってまいります。

我々獣医師は、動物を診療する立場ではありますが、それがひいては人と環境の健康を守るマンハッタン原則につながるようになります。その意味では、私たちは日本医師会と様々な学術交流を行う中で、医師会を目指して我々自身のスキルアップやレベルアップを図り、そして感染症の予防、特に狂犬病予防体制の問題に対しては、国民の理解の下に再構築を図っていきたくと考えているところであります。日本医師会の横倉会長には、全国の医師会に地方の獣医師会との連携を依頼する文書を出していただきました。お陰様で数県にわたって地方レベルで医師会と獣医師会の協定が締結され、またその準備中であるということも多数あるとお聞きしているところであります。

日本獣医師会にとりまして狂犬病予防事業は大変重要な問題であります。この問題は2年間の中で十二分に論議をし、各界の意見を聞き、どこに問題があるのか、どこをどのように変えていかなければならないのか、国民あるいは国家は我々に何を求めているのか等をしっかりと分析し、国家事業としてのあるべき狂犬病予防事業から獣医師会のあるべき道を考え、役割を果たす体制を築き上げていきたくと考えています。

また、私はライフワークとして、十数年にわたり獣医学教育の整備充実と地方公務員の処遇改善に取り組んでまいりました。今、成長戦略を打ち出す中で、大学を設置することは地域の活性化につながるという安易な論理の下に誘致活動を展開されている地域があります。私どもは世界に通用する獣医師を育成するために各大学が連携し、コアカリキュラムを作り、あるいは共用試験を導入して臨床教育を充実する等の、様々な取り組みについて長い期間をかけて行ってきたところであります。この流れに逆行するような動きは断固として阻止をしなければなりません。

一方、地方公務員の処遇の問題ではありますが、国に要望しても国家公務員にそれだけの人数の獣医職がないので、国では獣医師の職域で独自の給与表を設けることができず、この壁を乗り越えることができませんでした。そこで、獣医師が最も多く勤務する都道府県の地方公務員の方々の処遇を改善することにして、そのためには都道府県知事、都道府県人事委員会、都道府県議会が理解を示していただくことが重要であります。現在、47都道府県議会に対し、公務員獣医師の処遇改善、動物看護師職の確立等について、様々な形で運動を展開しているところであります。お陰様で7月に行われます全国都道府県議会議長会において意見書が提出される見通しであります。この議案が全国レベルである本会議において可決されれば、私どもは改めて国との協議に入りたいと思っているところであります。そのために地方獣医師会の皆様方にも、それぞれ獣医学教育の整備充実の問題、処遇改善の問題に行動を起こしていただいているところであります。

私たちは、これらの問題について皆様と心をつなげて強い絆の下に解決に当たっていきたく願っているところであります。私は会長就任以来、機会が得られれば、できる限り地方にも出向いてまいりました。千葉県獣医師会の山根 晃会長におかれましては、本年2月に開催された学会年次大会では、大変お世話になりご苦労さまでした。年次大会の場では、全国の会員の皆様方から諸々のご意見を聞くことができました。また私は、地方獣医師会を訪問し、地方独自の課題もいただいているところであります。さらに、私は日本獣医師会雑誌、ホームページ、メールマガジン、特にメルマガでは春夏秋冬というコーナーを設け、随時タイムリーに私の考え方、日本獣医師会の方向を、直接構成会員の皆様方にお伝えをしているところです。今後とも、地方獣医師会、構成獣医師の皆様との対話を大切にしながら本会の運営に当たってまいります。

本日の総会で私ども執行部が提案いたします議題について審議をいただき、ご理解をいただき、そして地方獣医師会に大きな活動のうねりを起こしていただくことを心からお願い申し上げ、会長としての挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。